



JAあいち海部

自己改革の取り組み

～農業と地域をもっと元気に～



農協改革と自己改革について

農業に特化すべき

政府による「農協改革」とは？

「農協改革」は政府が規制改革推進会議の提言を受けて進めています。農業協同組合法が2015年に改正され、「農業所得の増大に最大限の配慮をしなければならない」ことが明記されました。

改正農協法の主な内容（2016年施行）

- ① J Aは営農経済事業に特化し、農業所得の増大に最大限の配慮をしなければならない
- ② 准組合員の事業利用を制限するかどうかを検討し、2021年に結論を出す

つまり…

信用事業の分離検討を要請

総合事業を否定し、代理店化を検討するよう J Aに指導・ヒアリング

つまり…

自己改革の実施状況の把握と指導
認定農業者にアンケート調査
正組合員の事業利用量の調査

「農協改革」が進むと、総合 J A 存続の危機？！

信用事業を分離すると…

総合事業ではなくなってしまうため、**農家所得向上に逆行**する。

- ・ 営農指導の財源確保ができなくなる
- ・ 農業資金決済が不便になる
- ・ 共同施設（出荷場など）が設置困難になる



准組合員の事業利用を制限すると…

事業量が安定せず、正組合員への**サービスも低下**する。

- ・ 准組合員が結集できず、農業振興にマイナス
- ・ 生活に必要なサービスが受けられなくなる



組合員・地域住民にもっと必要とされる J A を目指して…

J A の「自己改革」とは？

「自己改革」は地域の農業と暮らしを守り、次代へつないでいくための取り組みです。

積極的かつ多彩な事業と組織活動を展開し、組合員・地域住民が一体となった豊かな地域社会を実現していきます。

3つの基本目標

農業者の所得増大

農業生産の拡大

地域の活性化

農業+地域
に貢献

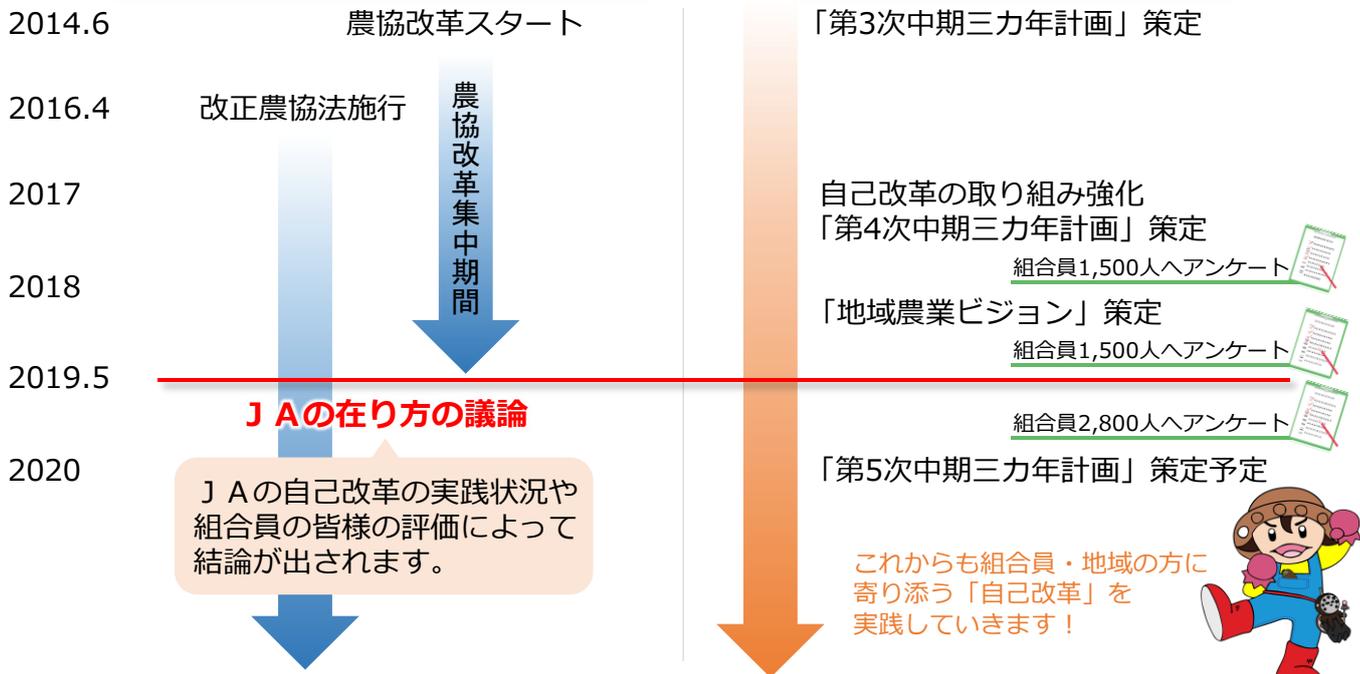


これからも地域農業に寄り添う J A であるために、
組合員皆様の“声”が、**総合 J A** を守る力になります。

「農協改革」と「自己改革」のスケジュール

政府による「農協改革」

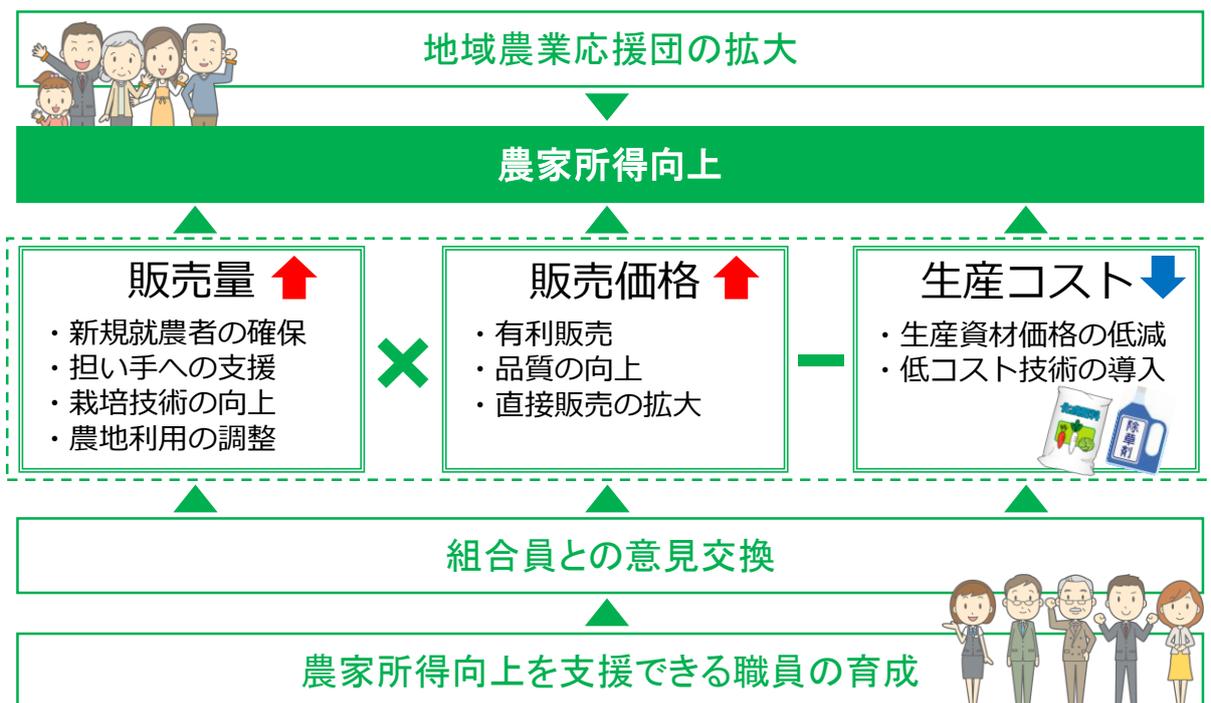
J Aの「自己改革」



農協改革・自己改革とは

「自己改革」実践スキーム

農家所得向上と魅力ある地域農業の実現に向けて、多種多様な担い手ニーズを捉え、地域農業の活性化に向けた「地域農業ビジョン」を策定しました。管内農業者および行政と連携し、農業の持続的な発展にJ A全体で取り組んでいます。



販売力強化に向けた取り組み

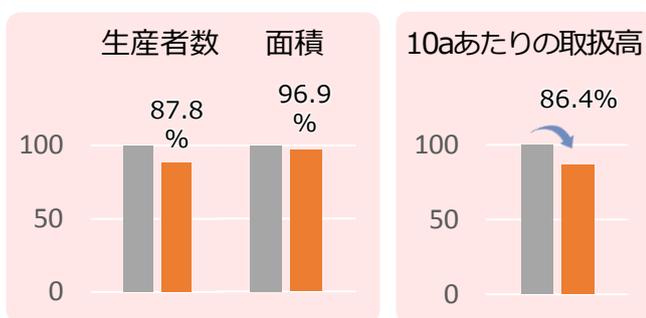


れんこん産地協議会設立により 伝統ある産地の強化と活性化を目指す

レンコン



2013年を100%とした場合…



これまでの取り組み

- 1996年 25組織が合併し、海部れんこん組合設立
- 1996年 れんこんセンター竣工
- 2010年 水掘り品種の試験栽培を開始
- 2012年 レンコン道場を開校
(愛知県・愛西市・JAの3者で新規就農への支援)
- 2019年 れんこん産地協議会設立

実績

高齢化、後継者不足により面積・出荷量ともに減少傾向です。そのため10年先を見据え、海部地域の維持発展を目的に、れんこん産地協議会を立ち上げました。

目指す姿

れんこん産地協議会では、産地とJA・関係機関の話し合いのもと、産地一丸となって生産基盤の拡充や産地ブランド化を目指します。

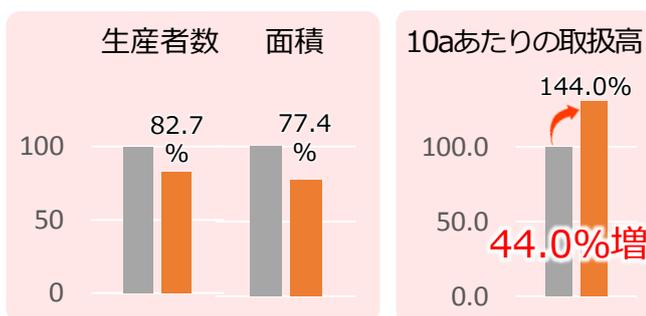


集出荷場の集約により、安定供給が可能に 「ゆめのか」ブランド向上へ

イチゴ



2013年を100%とした場合…



これまでの取り組み

- 2008年 イチゴ優良無病苗増殖施設利用組合の設立
- 2015年 あまイチゴ連合会による
4組織の共同販売に着手
- 2016年 ゆめのかに品種統一
- 2017年 イチゴセンター竣工
- 2017年 4組織が合併し、あまイチゴ組合設立

実績

出荷場の集約により、集配荷および物流面の効率が上がり、優良顧客への安定供給が可能となりました。その結果、実需者ニーズへの対応により、量販店への直納比率が増加しました。
また、出荷に関わる労力軽減により、重量単価が高い特殊規格の取り組み率が増加しました。

目指す姿

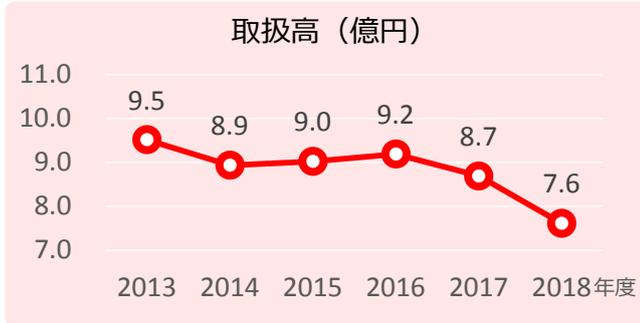
あまイチゴ組合の組織力を活かし、さらなる安定供給と産地ブランド化を目指します。

販売力強化に向けた取り組み

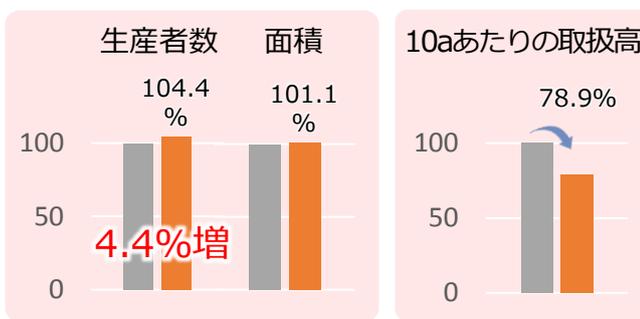


定期的な施設巡回や特殊規格に取り組み
生産量増加・高収益生産へ

トマト



2013年を100%とした場合...



これまでの取り組み

あまトマト部会

2013年 部会合併によりあまトマト部会設立
2014~18年 あまトマト部会に合計5名加入
2018年 若手農家が品質向上に向けた

マルエストマト組合

2017年 マルエストマト組合に2名加入

糖度測定、勉強会を開催

実績

あまトマト部会、マルエストマト組合ともに品質向上を目的とし、組織ごとで生産者、職員、関係者で生産者の施設巡回を行っています。あまトマト部会では所得向上と販路拡大のため、4kg箱に加え、500gパックの特殊規格も出荷をしています。

目指す姿

さらなるICT先進技術の導入や作期前進拡大により高収益生産に取り組みます。トマトセンターの選果施設の拡充・高度化を図ります。



行政と連携し担い手へ農地の集積・集約を進め
作業の円滑化を図る

お米



10年

市町村別面積	2007年度	2017年度
津島市	72 ha	193 ha
愛西市	193 ha	584 ha
弥富市	175 ha	674 ha
蟹江町	0 ha	17 ha
飛島村	45 ha	180 ha
合計	485 ha	1648 ha

※「海部の農林水産業～統計資料2018～」より引用
数値は農地利用集積円滑化事業、農地中間管理事業、農地保有合理化事業、農作業受委託等を含む

2007年度から比較しておよそ4倍まで拡大し、1,648haが利用権設定されています。作業効率の向上や生産基盤の拡大を目指し、農地の集積・集約化に取り組みます。

農地相談

作業効率の向上や生産基盤の拡大、円滑な農地の継承を進めるため、農地相談窓口を開設しています。
2018年度は北部地区**61**件、南部地区**54**件の相談がありました。

農地の賃貸借について

- ・北部営農センター農産課 TEL 0567-23-3011
- ・南部営農センター農産課 TEL 0567-56-6801

農地の売買について

- ・生活部資産管理課 TEL 0567-56-6805

中核的・多様な担い手の育成 生産コストの低減

出向く体制の強化により 年間2,500回以上訪問
担い手の総合的な支援に取り組む

3名の担当者が定期的に担い手を訪問し、経営診断の実施、補助事業や農業制度資金などの融資の提案、労働力の確保支援に向けた取り組みをしています。

担い手 訪問件数 **2,586回**
(2018年4月～2019年3月)



産直会員の育成のため「農業塾」「就農塾」を開講
新規産直加入者が前年より 48.3%増加

担い手の育成 生産コストの低減



農業塾

農産物の栽培技術の習得・向上を目的に開催しています。講義や実習により農業に関する知識を深めます。

講義**12回** 参加**50名**



就農塾

産直会員の育成を目的とし、実技中心に技術向上を目指しています。資材を提供し、自宅でも同時進行で栽培ができます。

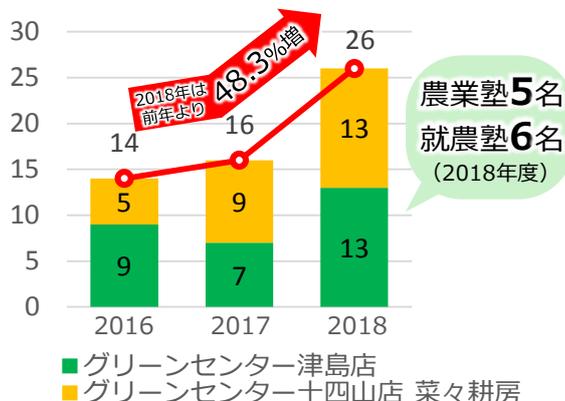
講義**12回** 参加**16名**

2018年開講

グリーンセンター産直部会

グリーンセンターに出荷する生産者の部会です。産直会員数は約430名で、農業塾や就農塾からの新規会員もあり、地域農業と店舗の活性化を目指しています。

産直会員新規加入者数(人)



生産コスト低減のため肥料助成を実施
2018年は 約9万袋の利用があり 約364万円を助成

2018年開始

2018年1月より、農家所得向上を目的に肥料コスト低減に取り組んでいます。期間中に対象品目の肥料・除草剤をご購入いただいた組合員の皆様の費用を一部助成いたします。

2018年 実績	水稲基肥(18品目)	園芸肥料(19品目)
助成金額	1,243,058円	2,396,050円
利用数量	30,929袋	59,437袋
実施期間	2018年1月～6月	2018年1月～12月



2019年は対象品目も増やし、新たに除草剤も助成いたします。期間中にぜひご活用ください。

地域農業を応援する准組合員の拡大へ 事業利用を通じて「地産地消」を促進

地域農業振興の応援団である准組合員が、年々増加しています。准組合員の加入を促進するとともに、准組合員の声をJA運営に反映し、グリーンセンターの利用を促す取り組みを実施しています。

准組合員モニター



モニターアンケート
意見交換、収穫体験

農産物ポイント交換会

れんこん・ゆめのか
トマト・花 など

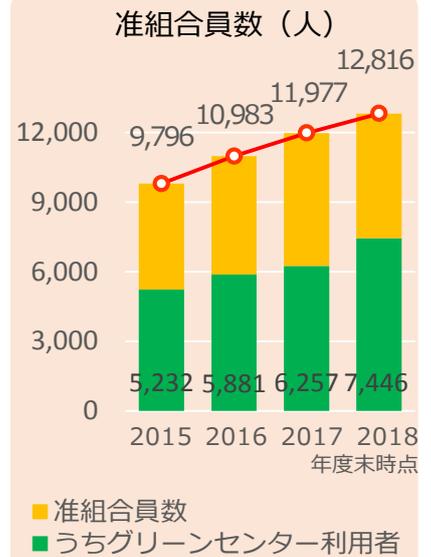


農業応援チケット

定期貯金キャンペーン



グリーンセンターで
使えるチケット



野菜ソムリエ・食育ソムリエ誕生 地元でとれた旬な食材をおいしくPR

オリジナルレシピ **151**種類 (2019年3月末時点)

旬の野菜を使ったレシピを考案しています。
レシピはホームページ、店舗レジ付近で常時配置
しております。



2018年開始

野菜ソムリエ
活動日

グリーンセンター津島店
毎週**木**曜日 (月4回)

グリーンセンター十四山店
隔週**金**曜日 (月2回)

そのほかの日程でも
食育ソムリエが活動して
います。

“食・人・農のつながり” が学べる活動を継続実施 自分で育てる楽しさと大変さを子供たちへ

わいわいキッズスクール

年10回開催し、野菜の種まきから収穫まで
様々な体験を行っています。

参加人数 **2,581**名
(2012年～2018年のべ数)



小学生への出前授業

小学校に出向き、野菜の植え付け、田植え、
稲刈りなどを教えています。2018年度は
8つの小学校で授業を行いました。

参加人数 **10,183**名
(2008年～2018年のべ数)



地域の拠りどころとして親しまれ、喜ばれ、地域に貢献するJAを目指し、各支店で食農イベントを実施しています



八開支店

秋野菜の収穫体験

飛島支店など全3支店



年金受給日に抹茶・甘酒などの振る舞い



鍋田支店

特別養護老人ホームにて餅つき



立田支店

特産「ゆめのか」収穫体験

津島支店など全5支店



小学生の町探検でJAに訪問

佐織支店など全7支店



父の日に来店者へプレゼント

弥富支店など全8支店



母の日にカーネーションをプレゼント

蟹江支店



来店者へひまわり苗をプレゼント



れんこん即売会を開催

永和支店

支店を核としたJAづくり活動



市江支店など全12支店



伊勢湾台風記録写真展を開催

立田支店など全3支店



小中学生の書道・ポスターを支店に展示

飛島支店など全6支店



夏休みに旅行を開催 トーマスのSLに乗車

永和支店



初心者にもやさしい野菜の栽培講習

佐屋支店



職員が育てたサツマイモを園児と収穫

十四山支店など全6支店



地域の祭りに出店

市江支店



夏休みの宿題(書道)をお手伝い

佐屋支店



地元米を使った五平餅作り

JA あいち海部 広報大使 れんたろう



本店 / 〒496-0876 津島市大縄町9丁目63番地
TEL 0567-28-6688 FAX 0567-28-6655

▼ホームページ



▼Facebook

